

# 図画工作科部会

司会者 吉野 法行（旭川市立旭川第二中学校教諭）

助言者 吉中 博道（美瑛町立美馬牛小学校校長）

大石 朋生（北海道教育大学旭川校准教授）

## I 授業の部会から ※主なものを抜粋

### 表現に生かす、「見ること」の設定の工夫について

- 部屋を暗くすることで、非日常的な空間の中で児童が活動に没頭していた。鑑賞に気持ちが向かない児童もいたので、途中で部屋を明るくして日常に帰ってくるということもできたのではないかな。
- 全体での鑑賞ではなく、グループごとの鑑賞を取り入れてもよかった。
- 隣の子のやっていることを見て自分の表現に取り入れることも鑑賞である。そういった意味では意識的ではなくとも鑑賞している姿が見られた。

### 鑑賞を生かすための環境づくりや材料の準備について

- 人工の光を使ったことで、天候に左右されずに学習に取り組めていた。外での活動の方がダイナミックに活動ができ、色々な表現を児童が見付けることができる。しかし、広い場所だと児童の活動を把握しきれなかったり、児童の実態によっては活動のねらいからずれたりする可能性がある。ねらいによって使い分けるとよい。
- ライトは1つだけだったが、端の児童は使いにくい様子もあったので、作業用としてもう一つ用意するという手立ても考えられた。
- 透明な色水を、空のインクカートリッジを水につけてつくる方法は、色の三原色が揃っていることやコストの面から面白いと感じた。
- 色水を混ぜて色を作ることに夢中になってしまう児童もいた。1時間目の試しの授業で色を混ぜることを十分に行っていると、本時では「映す」に集中できたかもしれない。

### 児童の表現を広げるための評価の工夫

- 授業の中で光を通さない水をつくっていた児童がいたが、そういった児童の評価が難しく感じられる。光を通す、通さないの比較をしている可能性もあるし、透き通った透明な色水をつくるのが児童にとって価値のある活動とは限らない。
- 造形遊びは、児童の行為の意味を踏まえて評価を行う必要がある。そのためには、児童との対話や児童自身の活動の記録が必要になる。
- 評価をするためには、話を聞くことが大切である。児童にとってどんな意味があるのかなどを聞く。そのためには、普段の授業から児童の考えを聞き、自分から話す児童を育てていく必要がある。
- 評価は規準に従って付ける必要があるし、教師が目標に向かわせることも必要である。ただ、ねらいからはみ出した部分が駄目というわけではない。

### その他

- 造形遊びでは、活動に夢中になったり、自分のやってみたいことを試したりすることができる。このような体験や遊びが経験となり、中学校以降にも生きてくる。

## Ⅱ 助言者からの講評 ※要点のみ

### (1) 吉中 博道 校長から

子供たちがやりたくてやりたくてしょうがないという姿が授業の中で見られた。授業者のねらっていたことがどのように実現されていたかについてだが、グループの中で見合うために、あえて光源を一つにするのはお互いの表現を見合わせるというねらいを実現するための環境づくりになっていた。全部のグループで光は下向きになっていたが、色々な向きだったら別のところに移すなど他の表現が児童の中から出たかもしれない。ただ、子供の視線を一か所に集めて、「見ること」にはつながっていた。



授業の中にあつた「見て見てタイム」については、授業者が大声を張り上げないと注目されないという状況ではなく、造形遊びの中で子供が野生を發揮しながらも一か所に集中して見るための仕掛けや授業の組み方が必要だったのではないか。例えば、部会の話でもあつたが、没頭している子供がちゃんと一か所に集中するような工夫こそが、指導者が意図的に鑑賞させるための工夫と言えるのではないか。一生懸命集中して取り組んでいる児童の活動を止めて鑑賞をさせるのなら、それ以上に魅力的な何かを用意する必要がある。

### (2) 大石 朋生 准教授から

部屋をもっと暗くしたら児童はどのような活動をするのか、部屋を最初から暗くするのではなく、徐々に暗くしていくとまた違う児童の活動や表現、気付きが生まれるのではないかなど、様々な可能性を考えながら授業を見た。表現している最中に鑑賞の時間を取っていたが、先生が強い光源を持ち、注目を集める道具として使うなど、鑑賞させるための工夫も考えられたのではないか。

造形遊びは、今だからこそやらなければならない活動の一つだということを授業や検討を通して改めて感じた。それは、子供たちが主導で授業が運営されていく学び方や、学びを表現に生かす・つなげるなどをしながら自分で判断し、表現が造形的な学びにつながっていくからである。小学校低学年の段階で思い切り造形遊びを行い、自分なりの表現を追求する活動をやっておかないと、ここから先、指示待ちになってしまう恐れがあるのではないかと感じる。先生方にとって造形遊びは準備の負担が多く、敬遠される傾向にあるかもしれないが、ぜひ積極的に取り組んでほしい。

